

## 横浜国際港都建設審議会

### 第2回起草委員会

平成17年10月24日

《出席委員》明石康委員（委員長）、福田幸男委員（第1部会長）、  
小林重敬委員（第2部会長）、跡田直澄委員（第3部会長）

#### 議事

【起草委員長】 それでは、第2回起草委員会を始めたいと思います。よろしくお願います。

前回の起草委員会では、一般的な部分で、いろいろと有意義な意見の交換がございましたし、また、総会においても自由闊達な意見交換がありました。

今日は2回目の起草委員会でありますけれども、ご承知のとおり起草委員会は全部で3回を予定しておりますので、ある意味では今日が一つの大きな山場であり、我々が答申案をまとめる上での骨格づくりを行うこととなりますので、いろいろお考えになっておられることや、現在までに事務局が作成した資料についてのご意見などを思う存分ご発言いただければと思っております。

それでは、今日の審議について、まず資料説明を事務局からいただきたいと思います。

事務局から資料説明
-----------

【起草委員長】 ありがとうございます。

それでは、審議を始めたいと思います。

我々の前にありますとおり、A案とB案の2つの案を事務局側でつくっていただいたわけですが、その具体的な違いや類似性を議論する前に、基本的な骨組みがこのような4層構造でよろしいかどうか。また、4層構造にした場合、A案とB案は3番目と4番目の順序が逆になっておりますけれども、それによる良い面と悪い面なども論点になるでしょう。都市像の部分では、最初の全体的な都市像は極めて重要なところで、それを第2の「めざすところ」というところで、ある意味でいくつかに分けてやや具体的に4つないしは5つの方向を示しているという構造になっています。

では、最初に、印象的なことでも何でもよろしいですのでご発言いただけますか。

では第2部会長、お願いします。

【第2部会長】 この、とりまとめの全体構成について、A案とB案がございしますが、

私が一般的にかかわっている、例えば都市計画の基本計画とか、そういう計画をつくるときの構成がどうなっているかということを考えてみますと、どちらかというとなら構成的にはA案ですね。どういふことを実際にやりたいのかということを書いた上で、最後にそれをどういふ仕組みで考えてやっていくのかということをお述べる。

最後の部分で協働など、行政側だけがやるのではなくて、市民も協働してそういうことをやりますというようない記載をする、A案のスタイルが割合多いような気がします。

B案のように、実現の方向性の具体的な記載をする前に、このようにやるのですよということを書いてしまうと、何をそういう形でやる必要があるのかということがわからない状況になりますので、そうではなくて、具体的にこれからやることの内容がこういうことであって、それをやるに当たってはこういう基本的な行動指針でやりましょうという書きかたをする。市民と行政が一緒になってやる必要があるし、それに当たっては情報を共有していきましょと。それから、その上の都市経営の部分ですが、市が独自の課題を設定してやりますというようない部分は、順番についていろいろ議論はあると思ひますが、それを最後に書くのが一般的のようない思ひております。

それからもう1点、A案とB案の違いは「めざすところ」が4つと5つに分かれておりますが、特にこれは第2部会にかかわる部分であります。我々の部会はかなり多様な内容が1つに含まれておひまして、なかなか対応が難しかったので、できれば「めざすところ」はむしろB案のように5つに分けて記述いただいたほうが、我々としてはありがたいということおです。

**【起草委員長】** ありがとうございます。

第1部会長、お願いしてよろしいおですか。

**【第1部会長】** 私も、全体構成はA案のほうがわりと素直に読めるかなと思ひます。それと、私どもは第1部会おですから、「めざすところ」の数については、A案であろうとB案であろうとほとんど大きな変化がないというところもありまして、そこにつきましては第2部会の意向を反映できる形でよろしいかと思ひております。

それから、全体構成の中で特に最初の部分のキャッチフレーズがすごく大事なところおあって、ここをどう押さえていくかというところが、論点になると考えております。都市像全体をわかりやすい言葉で的確に表現できるかどうかというところは、委員の方がとても注目しているところおありますし、ぜひそのあたりもいいキャッチフレーズや、いいキーワードで表現できればという強い希望をお抱ひております。

【起草委員長】      ありがとうございます。

メインのキャッチフレーズについては、今いろいろな方々からも意見や公募のような形でお聞きしているということですが、中学生が夢を膨らませて考えたフレーズのなかにも、すばらしく、よくまとまっているものがあります。我々の審議の過程で選ばれるキャッチフレーズと同じである必要は必ずしもないと思いますが、参考になると思います。

それでは、「めざすところ」の数に関しては、A案とB案のうちB案のほうがよろしいのではないかという第2部会長のご意見もありましたし、私もこの項目の分け方からいって、B案の5項目に分ける分け方がいいように思います。

それから、もう1つのご指摘は、「とりくむ方向」と「とりくみかた（行動指針）」の順序については、A案のほうがわかりやすいのではないかというご意見がありました。経験豊かな先生の考え方に従ってはどうかと思いますけれども、少し竜頭蛇尾といえますか、最後の行動指針のところは他のところと比べてちょっと簡単になってしまっている感もありますので、いろいろな我々の構想・方向性を実際に実現するためにはどういう実現の手順があり、方法があり、また問題点があるのかということについて、あまり夢ばかりを膨らますのではなくて、それについて現実的な視点をこの「とりくみかた」の部分にもっと盛り込んだ形にできるとよいのではないかという感じがいたします。

【事務局】      事務局のほうから、少しご説明させていただいてよろしいでしょうか。

今、ご指摘いただきました行動指針の「とりくみかた」の部分につきましては、第3部会の審議分野との関係が非常に強いところでございまして、この部分につきましてはこれからも第3部会の審議を踏まえ、調整をさせていただいて、どういった内容にするかという議論を進めていきたいと考えてございます。

それから、審議の項目として、それぞれのアピールの形になりますが、やはり記載の順番もございまして、それぞれの分野で複数の都市像等が出てきているのですけれども、どちらの重要性が高いということではないのですが、やはりアピールのしかたとして、それぞれの項目内でもどのような記載の並び順にするかということが論点としてございます。

【起草委員長】      ありがとうございます。

では、この「とりくみかた」の部分については第3部会のさらなる審議に基づいて膨らます可能性があるという説明をいただきましたので、私はそれでよいのではないかと思います。

では、ここで事務局から各項目の具体的な内容説明があるとのことですので、お願いし

ます。

事務局から資料の内容説明
--------------

【起草委員長】 ありがとうございます。

第3部会長から何か全体的なコメントはございますか。

【第3部会長】 事前にEメールでファイルをいただいたのですが、とてもカラフルで、横浜市の職員の皆さんもかなり頭が柔らかくなってきたのかなという感じで、おそらく今の段階でも市民の皆さんに見ていただいたら、従来のものよりはちょっと読みやすくなってきたかなという、全般的な印象です。

それでもまだ、どこを読んでほしいのかというのがわかりにくいという点で、やはり字が多過ぎる部分があると思うんです。ですから、伝えたい情報をもう少しコンパクトにして、わかりやすくするという点と、それから「とりくむ方向」の10項目の中にそれぞれ細かい黒い点を書いてある部分はどうしても減らせない部分だと思いますので、そういうところは別枠で後ろのほうに提示をするというような形にして、やはりだれもが読んでくれるということを少し意識したつくり方も必要ではないかというのが、1つコメントとして申し上げたいところです。

それから内容のまとめ方について、これは先ほど第2部会長からご指摘があり、事務局からも補足説明がありましたが、全体都市像があり、そして「めざすところ」、そして「とりくむ方向」、「とりくみかた」という形になっているのですが、何か「とりくむ方向」までは順番に、絞った都市像からだんだん具体的な内容に、「めざすところ」、「とりくむ方向」と進み、そしてその後に行動指針というものが急に出てくるところに少し違和感があり、それも3つに絞った形で出てくるので、見た瞬間は少し違和感を覚えました。

あと、それぞれの有機的なつながりがもう少しわかったほうがよいかと思います。特に「めざすところ」と「とりくむ方向」はある程度の関連性があるというふうに、何か書いたほうがいいのではないかと。特に、このとりまとめの全体構成のところでは、その辺の有機的な関係がもう少し示されたほうがいいのではないかとということが、全般的なところで気になったところでございます。

あと、第3部会といたしましては最初から予想をしていたのですが、第3部会の審議分野においては、自分たちオリジナルの方向性を持てるところは行政的視点を持つ内容のところになりがちですので、あまり大きな取扱にならないだろうと思っておりましたが、各部分に第3部会での議論が盛り込まれておりますので、私なりにはよろしいかと思います。

【起草委員長】      ありがとうございました。

「とりくむ方向」と「とりくみかた」の順序につきましては、先ほどもご指摘がありましたが、私を含めて、やはり最後のところが少し弱い感じを受けますので、それをもう少し迫力のある膨らませたものにしてほしいと思いますし、まさに第3部会にその点は期待するところが多いということで、ぜひお願いできればと思っております。

それから、第3部会長がおっしゃった幾つかの点は、少なくとも私自身も共鳴するところが多いわけで、カラフルと表現されたことは他の意味も混ざっているように私は憶測したのですけれども、全体として大変いいアイデアや考え方が盛り込まれているのですが、それを我々がどのようにパッケージするか、まとめるか、処理するか、そういう視点から、もう少し簡潔に。全体として簡潔な処理の仕方がありはしないかと私も考えます。

各分野である程度の重複はやむを得ないとしても、内容についても、表現についても、もう少し吟味していただくとありがたいと思います。

例としまして、この2ページの「横浜の都市像」のところを挙げますと、「しあわせ」という言葉がここだけで2、3回出てきますし、次のページでも少なくとも3回は出てくるのですけれども、同じ形容詞が何度も出てくると、やや煩雑の重複感を読者が持つのではないかと思います。それから「キラリ☆と光る」というのは、もう少し落ち着いた表現がないのかなという感じもします。

それから「個性」という言葉を、少なくとも2つの違った意味で使っているのですね。個人の個性というものと、横浜の個性、これは使い分けたほうがいいと思います。個性というのは、基本的に一人ひとりの持つ個性であって、横浜らしさというものをどういうふうに表示するか、議論の余地があるとは思いますが、横浜の個性と言った場合には少し違和感を持つ人もあるのではないかと思います。

全体として、これは私の年齢にもよるところかもしれませんが、やや甘い形容詞が多いように思います。これは第3部会長の、もっとディプロマティックに言われた「カラフル」という表現につながるかもしれませんが、あまりなくていいのではないかと思います。

それから、「とりくみかた」のところで、既にある程度触れられてはいるのですが、このようなアイデアを生かしていく上で克服すべき問題点や、実現を阻害するであろう財政的その他の要因など、そういうものについてあまり市民が楽観的な期待を持たないように、またあるいは市民一人ひとりが、また行政並びに企業が、政策上の選択肢をきちんと求め

なくてはいけないことにもなるのではないかと思います。

それから、市民の「みんな」が参加するということはまことに望ましいことなのですが、たとえば8ページの、この(8)番目の「利便で快適な地域は、そこに暮らすみんなで創る」、「みんなが横浜でしあわせな生活を送るためには」の部分ですが、この市民参加ということはまことに必要なことですし、望ましいことですが、そういうものに「みんな」が参加するということは理想であって、現実にはなかなか実現しないと思います。ですから、できるだけ多くの人に参加するということではないでしょうか。参加しないという選択肢も設けておかないと、本当に自由な雰囲気には必ずしもならないのではないかと思います。

それから、少し長過ぎる文章もあるので、そういう部分は短くしていただくと読みやすくなるのではないかと思います。

また、私が最近非常に強く感じていることなのですが、また、国内のいろいろな都市でもそういう動きが強くなっているのですが、「都市景観」の視点です。景観の重要性。これについては関連の表現が幾つかあって、歴史や異国情緒のある街並みと先進的な都市空間が活用されたまちづくり、これとの関連にもなります。この視点は、環境問題にもつながってくるかもしれませんが、市民がより高い意識を持つということが必要ではないかと思います。

それから、4ページの「めざすところ」第3のところ、終身雇用制度のメリットとデメリットについて論じているわけですが、終身雇用制度が「働くということの意味や動機付けの希薄化」をもたらすというのは、必ずしも私はそうではないと思います。企業を経営する立場にある方も同じようなご見解をされる方がいらっしゃいますので、あまりここで議論が分かれるところについて1つの立場をとらないほうがいいのではないかと思います。

それから先ほども申し上げましたが、「しあわせ」という言葉がたくさん出てきますけれども、「しあわせ」というのは基本的に主観的なものですので、「いきいきとした」とか、何かよりセンチメンタルではない表現があるならば、そういうものも使うことを考えたらどうかと思います。

「みんな」の表現に関連して、10ページの(B)のところ、「すべての市民が地域活動に様々な方法で参加する」という表現がありますが、私は「すべての」というところが同様に少しひっかかります。

それから、これは最後のところの「都市経営」の部分で、まさにきちんと取り上げられているのですけれども、「限られた経営資源のなかで、変化への柔軟な対応と効果的なサービス提供を実現していくため」と、「選択と集中を徹底」させるとか、「市場の競争原理を導入する」とか、こういう厳しい、将来ますます厳しくなるであろう現実の問題を、この最後の行動指針のところを肉づけする過程で、より強調していただけるといいのではないかと思います。

全体として、若い人にアピールすることも大事であり、内容が豊かでありながらも読みやすいということはとても必要なことですが、私自身の好みを言うと、文体はやはり品格のある文体ということも心がけていただきたいと思います。

【第2部会長】 2ページですが、ここで2つの大きな枠組みができていて、1つは「みんなのちから」、「市民自ら」という話があって、もう1つは「キラリ☆と光る個性」ということなのですが、特にこの表書きはともかくとして、その下に2つ丸で、「横浜は、年齢や性別、障害の有無や国籍などにかかわらず、一人ひとりの人権や多様な個性が尊重され」と、ここの文章はどちらかというと市民が客体的に、そこに、横浜市にいる人は尊重されて幸せを感じられるようにしたいという、そういう表現になっていますね。2番目は、むしろそうではなくて、あなた方の行動、市民一人ひとりの行動が重要なのだと言っているのです、補い合っているという考え方もあるのですけれども、我々第2部会の議論でもそうですが、むしろ個性が尊重されるのではなくて個性を市民が尊重する。尊重して、訪れる人、働く人、住む人がみんなで何かをつくり出すまちでありたいという、そういう主体性を持った行動をする市民なのだということ、そういう表現に変えたほうがいいのではないかと思います。

そうすると、次の「あなたの想いと行動が」という、「みんなのちから」に結びついていくような気がするのです。表現がそれぞれ少し違う方向を向いているものですから、それでよろしいのかなと疑問を感じるということが1つでございます。

それからもう1点、これは第3部会のほうにお任せしたいとは思いますが、最後の「行動指針」ですが、できるだけここはコンパクトに、今までの方針とはここが違うのですよということを端的に表現していただいたほうが、インパクトがあるのではないかなと思っておりまして、都市経営、協働、特に（B）の協働という言葉の中に参加という言葉と一緒に混じっているのですけれども、我々が議論すると「参加と協働とはどう違うんだ」とか、いろいろな議論がありまして、協働という言葉を使ったからには、協働とい

うのは従来の参加とは違うということを中心に、一貫して書いていただいたほうがいいと思います。

その上で全体のストーリーですね。文章化されたものを見ると、大体わかることはわかるのですが、行政と市民、あるいは市民と企業、そういうさまざまな主体が協働して、これからの横浜型協働経営機能を発揮していくんだと。そのためには、何よりも情報提供が必要であって、質の高い情報提供、正確な情報提供がこれから必要で、そのことなしに協働というのは語れない。協働することによって、都市経営が従来の経営とは違うものになるのだろうという、そういう全体のストーリーがおそらくできているのだろうと思いますが、その辺の全体像をわかりやすく、ぜひこの部分で表現していただくとありがたいと思います。

特に、その前の「とりくむ方向」は、ある意味でツリー状に個別化されておりますので、ここでまとめていただかないと、どういう方向を市がこれからの舵取りとして考えているのかということ、あるいは市民と一緒に考えたいと思っているのかということが、ここで最後に伝わると思いますので、ぜひ工夫いただけないかなという、勝手なことを申し上げます。

**【起草委員長】** 大変適切なご指摘だと思いますので、事務局もそういう点に留意していただければと思います。第3部会長お願いします。

**【第3部会長】** 自分でも物足りないなという発言をした手前もありますので、また、確かに第3部会が本来この部分は議論していくべきところではありますが、確かに行政のあり方、そして市民や企業、あとNPOというような、実際に協働するところ、それから市民自身の考え方というもの、そういうものをうまく盛り込んでいく必要があります。

おそらく、この「とりくみかた」の3つがきちんとつながっていれば、前の「とりくむ方向」その他のところとのつながりが見えてくるのだろうと思いますので、少しその辺を意識しながら、厚めに書けるように、皆さんとも部会のほうでも調整させていただきたいと思います。

**【起草委員長】** 第1部会長どうぞ。

**【第1部会長】** 今の観点で言うと、意識改革というのは変ですけども、市民の側から、これから先自分たちがどう生きていくかということ、これまでの生活と比較しながら考える、変わっていくということがなかなかできない部分もあるわけですから、そういう意味で、20年後の横浜はこういう形で皆さんの力が発揮されるという部分がはっきり



示されれば、その間に自分たちも何をしていけばいいのかという、ある種の目標が持てるようにも思いますので、ぜひしっかり書いていただきたいと思います。

それから、第1部会はどちらかというところ暮らしといますか、子どもから高齢者まで、こうあってほしいというところがたくさん出てきたものですから、その調整がこういう中でうまく図られるといいかと思えます。できること、できないこと、自らがやらなければいけないことというものが、ある程度区分けができれば非常にいいという感じがしています。

それから、やはり言葉や表現ということが非常に難しいと思っていて、例えば「おたがいさま」という表現が最後に出てくるのですけれども、使い勝手としては非常によいのですが、果たして「おたがいさま」でこれから済むのかなというところが、少し議論すべき部分であって、いい言葉ではあるのですが、何か違う言葉も探してみたらどうかという印象があります。

**【起草委員長】** ありがとうございます。

私も、最後のご指摘の部分は同感でして、我々のノスタルジーが反映しているのかもしれませんが、もう少し若い人たちにも抵抗なしに受け入れられるような人と人とのつき合い方、コミュニティでの生き方、そういう適切な表現があるかどうか、探してみる価値は十分にあると思います。

**【第2部会長】** 細かい点ですけれども、今までの横浜の都市づくりの方向性とは若干違和感ある表現があるので、ちょっとご指摘したいと思います。

4ページの上の「個性に応じた労働と、充実した地域・家庭生活を両立できる都市」の項目の文書化されたところの2段落目になりますか、「また、東京を中心とする巨大な経済圏のなかに位置しながら、働く場と地域・家庭生活の場を大規模に併せ持つという横浜の特性を活かし、住宅地と働く場や遊び」云々と「近接している利便性と快適性のある、暮らしやすく働きやすい都市を目指します」と、この「目指します」はいいのですけれども、その前提として、横浜は既に働く場と地域・家庭生活の場を大規模にあわせ持つという特徴があると言い切っているのかどうかと、少し気になっておまして、働く場はまだまだ十分は持っていないくて、職住近接の議論をすると、やはりまだ東京との関係を非常に考えなければいけないという、そういう問題は今後も控えていると思いますので、この記述は少し修正したほうがいいのではないかと思います。

**【事務局】** 実際には昼間の人口と夜の人口では昼間のほうが少なく、いわゆるベッ

ドタウンの現象が残っています。昼夜間人口比率はまだ90%ぐらいですので、今ご指摘いただきましたとおり「併せ持っている」というのは少し未来への希望的観測でもあり、現実とは言い切れません。少し表現を改めます。

【起草委員長】 東京も実は同じ問題を抱えていまして、都心の千代田区、港区、その他4つの区の昼間人口と夜間人口はかなり違うのです。しかし、港区においては森ビルを中心に、そこで働き、そこで生活し、そこで遊び、できれば3世代にわたる温みのある生活ができるようなコミュニティをつくろうということを、いろいろスローガン化しています。話し合っているのですね。

横浜も、またそれを目指しているのだということで、充実するのはもちろんかまわないと思います。

第3部会長どうぞ。

【第3部会長】 前から気になっているところなのですが、「めざすところ」が5つになるわけですが、この順番がこれでいいのかなということが少し気になっております。

基本的に今の世の中では安心・安全ということが確かに叫ばれているわけなのですが、これから目指していく横浜ということで考えるときには、やはり少なくとも活力のないまちではどう頑張っても安心と安全が出てこないのではないかという気が私自身の中ではありますので、5つであるならば、どちらかというとならば4番目ですか、「みんないきいき元気な都市」というようなものが最初にあって、そして教育で、安心・安全というような順番だと一番無難ではないかなと思うのですが。

安心と安全に暮らせるというものをつくり出す一番基礎となる経済的な側面が弱まっていくというのでは、まち全体を荒廃化させていきますので。特に今、大阪などが味わっているのがその部分で、経済の衰退がそのまま犯罪の増加につながるなどもありますし、どちらかというとならばⅢとかⅣが先があって、それから暮らしということでもいいと思うのです。都市構造とかまちづくりと産業を上に出して、何か順番といいますか、意識としてはまず活性化をやりませうと。そして人も育てて、安心と安全を守りますという、そういう並び方もあるのではないかと思います。

これは1つの政策的な重視の度合いによると思いますけれども、私自身としては少しその辺が気になっているところですが。これは、こうしてくれというよりは、1つの意見としてお聞きいただければと思います。

【起草委員長】 大変重要なご意見だと思いますので、できれば第1、第2部会長から

もご意見をいただければと思います。

【第1部会長】 私は、そこは少し意見が違いまして、まず基本として、だれもが安心して暮らせるまちというところを第一に出すべきではないかという考えがあります。経済・産業という問題もありますが、それを支えるといいますか、実現するためにも、人を中心に置いて考える必要がありますし、安心・安全という部分はやはり市民にとってはまずだれもが一番に望むことではないかと思います。

ただ、この並びはおそらく第1、第2、第3という部会の順番で並んでいることもあり、ご意見によっては別にこの順序にこだわる必要はないと思いますので、これはそれぞれのご意見を元に議論すべきではないかと思います。

【起草委員長】 第2部会長、いかがですか。

【第2部会長】 私の意見も少し違っています、今回、我々第2部会で議論した内容では、Ⅱの教育・人材育成・知的財産の部分、横浜にさまざまな人材が集まる、そういうことが極めて重要で、その上で暮らしや働き場があって、それを支えるものとして安全性と持続可能性があるというような、そういったストーリーが今回の全体構成としては一番ふさわしいのではないかと思います。

確かに人が重要なのですけれども、安心・安全を最初に出すよりも、むしろ「教育・人材育成」、それから「世界で活躍する人材を育み」というところ、その表現についてはいろいろ議論があると思いますが、そこから入っていくのが横浜らしい構想の1つではないかなと私は思っております。

【起草委員長】 ありがとうございます。

優しさとたくましさ、どういうバランスをとるかという大変難しい問題であり、両方も達成されなくてはいけない重要な目標です。配置の仕方については、我々のこの次の、最後の集まりで決定したいと思いますけれども、我々の議論について事務局の方々も考えていただければありがたいと思います。

ほかに何かございますか。

【第2部会長】 もう1点、「めざすところ」の環境行動のところですが、「とりくむ方向」のところには、自然とかあるいはそれにかかわる農業とか、あるいは緑とか、そういう話がかかり入っているのですが、ここの中には、どちらかというところ「環境負荷の少ない省資源・循環型都市」とか、「環境と経済の調和」とか、環境を情報として提供するという、そういうある意味でのソフトな部分がかかり強く打ち出されていて、横浜市が持っている

自然とか、あるいはそれにかかわる農業とか、そういうまさに環境そのものの維持とか、そういう議論がここには出てきていないので、もしこういう形で出すのであれば、環境行動の中にやはりその部分も認識できるような表現を加えておいて、そのことが「とりくむ方向」の中の幾つかにつながっているという、そういう形をとっていただけないかという希望でございます。

**【起草委員長】** ありがとうございます。

では、事務局から、これまでのご指摘などについて、何かご発言などがあればいただきたいと思えます。

**【事務局】** では、簡単に整理をさせていただきたいと思えます。

まず1点は、「とりくむ方向」と「とりくみかた」の順番についてはA案の形でよろしいでしょうか。

それから2点目は、「めざすところ」という具体的な都市像の部分につきましては5つに分けるということで、私ども事務局とまた調整をさせていただいて、5つに分けた形で起草委員会の第2回とりまとめを作成していきたいと考えております。

それから、何点かご指摘いただきました文言や言葉の使い方などにつきましては、私どもの方でもまた修正をさせていただきまして、各委員の皆様とご意見を交換させていただきながら、修正を図っていきたく思っております。

それから「しあわせ」という言葉が数多く出てきているというところですが、実はこのたたき台をつくるに当たりまして、最初「しあわせ」という言葉をキーワードに使ってみたところがございます、それが多少残っております。ですので、いろいろなところで何度も使っておりますが、この部分につきましても、メイン・キーワードを再度皆様とともに第3回の起草委員会までにつくり上げてまいりたいと思っておりますので、またそのあたりの表現につきましても事務局のほうで修正をさせていただきたいと考えております。

ですので、「とりくむ方向」と「とりくみかた」の順番につきまして最終的なご審議をいただければ、とりあえずその他の文言や表現等につきましては、今後、個別にいただいてもかまわないかと思えます。

**【起草委員長】** 「とりくむ方向」と「とりくみかた」の順序については、これはA案でよろしいけれども、そのときは「とりくみかた」をもっと膨らませ、充実した形にするべきであろうということが指摘されまして、とはいえB案のイメージも、順序としてはいいのではないかという趣旨のご意見もありました。

私からも、A案でいくとしても、最後のところが竜頭蛇尾にならないように、それなりにインパクトを持ったものであれば、それでいいのではないかとこのことを付言させていただきました。

第3部会長、いかがでございましょう。

【第3部会長】 私も「前に」ということを言ったつもりではなかったのですが、A案のほうであっても別に順番はかまわないのですが、ただ、やはりこれだけでは最後の部分があまりにも手薄過ぎるということを申し上げたかったので、A案の順番で強化することがかまわないと思います。

【起草委員長】 ありがとうございます。そのようなことで、事務局側に対する指針としては明確だと思います。

【事務局】 では、そのような形で、構成につきましては現在のたたき台と同じ流れで、多少内容等の修正をさせていただきます。最後の「とりくみかた（行動指針）」の部分につきましては、また第3部会長とともに第5回の、次回の部会までにある程度膨らませることができれば、その段階までにフレームをつくり、部会の審議で埋めていくような、そのような方向で調整をさせていただければと思います。

【起草委員長】 膨らますということは、単に膨らますのではなくて、内容的に充実するという意味に理解しております。

【第3部会長】 最後に1つだけ。委員長からきちんとした格調高い答申をつくるべきというご指摘があったわけですが、広報活動の中では若い人たち向けといたしますか、やはり20代の若い人たちに伝えなければ意味がないので、そういうときには別枠のものをつくるとよいと思います。

ですから、例えばですが「とりくむ方向」の(1)のところで「誰もが集い、住み続けられる魅力あふれるまち」、そこで答申は終わってもいいのです。しかし、若い人たちにこれを知らせるとしたら、この「そんなステキなまちをつくりたい！」の部分が後ろについていたほうが、多分読んでくれる。色も、何かカラフルにしたほうがいいのかも。ですから、その辺の広報活動としてやる部分と、答申とする部分を少し分けながら考えるとよいと思います。

しかし、答申でも、これほど字が詰まっていたら多分みんな読んでくれないと思うので、せめて「めざすところ」の字の詰まりぐあいにしてほしいと思います。それでも4ページの方は少し多そうな気がしますので、せめて3ページぐらいの隙間のある、読みやすい文

章がいいと思います。また、やはり字は大きくないといけないと思います。高齢化社会ですから。それはもう最低12ポイントはないといけないというくらいのつもりでつくっていただいて、しかもそれで3ページと同じぐらいの字の隙間が出てくるぐらいにしないと。その部分をくれぐれも考えていただきたいと思います。

こういう審議会と市の職員や議会だけが読んでいて、市民がほとんど読んでいないというような状況にならないようなものを、答申としてもつくっていただきたいと思います。それは中身をおもしろおかしく書くのではなくて、情報量をきちんと過大にならないような形で出せば、市民は読んでくれると思いますので、その辺くれぐれも、2段階作戦をとっていただきたいと思います。

【起草委員長】 中田市長の執務室の前にポスターが張ってあって、そのポスターに「Impossible is nothing」という表現があるのですが、これはあるスポーツ器具の会社のスローガンだとも聞いたのですが、我々は事務局に対してインポッシブルなことをお願いしているのかもしれませんが。フランスの有名な作家の手紙に「今日は時間がないので、私の手紙は長くなります」ということが書いてあるのですね。ほんとうに簡潔な文章を書くというのは、莫大な時間と集中力を要する仕事なので、とても大変だと思いますが、より多くの市民に理解してもらうために、しかも我々の時代と違って短い時間で理解しようという、そういう手っ取り早さを要求する市民が増えてきているなかで、内容的な厚みや水準を下げないで、なおかつ短く適切な表現を探すという至難の業に、事務局としてぜひともさらに一段の努力をしていただければありがたいと思います。

それでは、これからの作業について事務局からご連絡がありましたら、お願いします。

事務局から日程連絡

【起草委員長】 それでは、本日の第2回起草委員会はこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —